

令和5年度 食育推進事業【食と花の推進課】

イオンリテール株式会社・新潟県立大学と連携した取組

1. 趣旨

本市では、第4次新潟市食育推進計画に基づき、市民が「食べることは生きること」を基本として捉え、環境に配慮しながら、新潟の食へ自発的に関心と誇りをもつことを目指している。

しかし現状として、特に若い世代で食に関する課題がみられることから、市内の健康栄養学科の公衆栄養学実習とからめ、消費者の生活に密接に結びついている小売店と連携し、「食を楽しむ」「バランスを意識する」「塩分を控える」等を視野に入れ、幅広い対象の市民へ普及啓発を図る。

※公衆栄養学とは

地域、国、国際的な「健康」の課題に対して、「食」の面から「組織的」に取組み改善することを目的とする。さらに、「環境」(持続的なフードシステム)に寄与する「食」(食事)も視野に入れている。

2. 目的

【イオンリテール株式会社】

○学生、行政と連携することで、新しい視点を取り入れるとともに、企業のPRにつなげる。

【新潟県立大学】

○行政、民間企業との連携を通じ、「健康」と「売れる」の両立にむけた工夫と手法を学ぶ。

【新潟市】

○学生実習と連携することで第4次計画の重点対象である若い世代の視点を取り入れる。
○行政独自の取組でなく、波及効果の高い企業と連携することで、効果的な施策につなげる。

3. 内容(案)

- 栄養学科の学生が考案した惣菜またはお弁当の販売
- 販促イベントの実施

食と農のわくわくSDGs学習推進事業について (令和版！アグリ・スタディ・プログラム)

◆SDGs未来都市に採択

自治体SDGsモデル事業名：将来に向けた持続可能な食と農の創出プロジェクト

提案者名：新潟県新潟市

取組内容の概要： デジタル技術を有効に活用し、新潟市の強みである「食」と「農」の価値を今以上に高める取組を行うことで、経済面・社会面・環境面の課題解決につなげ、それを三側面をつなぐ統合的取組により、さらに加速させることで持続可能な「食」と「農」の創出を行い、2030年のめざす姿の実現を確かなものとする。



◆目指す姿

＜農業分野＞

持続可能な農業に向け、
若者に選ばれる農業へ

＜教育分野＞

持続可能な社会に向け、
よりよく問題を解決する力を養う

- 大学まで、切れ目のない学びを提供するために、世代に合った新たなプログラムを提供する
- 食と農に関する学びを充実させることで、将来の食と農を支える人材の育成につなげる
- スマート農業とGIGAスクールを関連させ、農業をあこがれの職業にする

◆アグリ・スタディ・プログラムとの違い

	アグリ・スタディ・プログラム	令和版！アグリ・スタディ・プログラム
対象	小学校の低学年が中心	小学校中・高学年～大学
目標	教科のねらいの達成	主体的な学びによる課題解決
教科時間	主に生活・社会・理科等の一部 (各教科の年間70～105時間のうち、1～9時間)	総合的な学習の時間 (年間70時間うち、各校の裁量で設定)
内容	野菜等の栽培・収穫体験、 動物のふれあい体験、調理体験など	スマート農業などの先端技術、食と農に 関わるビジネスなどを掘り下げて学ぶ